

第10回 丸山・和田地区学校再編検討委員会 会議録

日 時 平成25年7月29日(月)
午後7時から午後9時15分
場 所 丸山公民館2階 大会議室
出席委員 丸山地区21人・和田地区22人
欠席委員 岡野委員、折原委員、大溝委員
傍聴人 2名

1 開会

2 委員長挨拶

皆さん、こんばんは。お疲れのところ御苦勞様でございます。中学の専門部会の皆様、いろいろと御検討いただきまして進んでいるようですので、ありがとうございます。あと、懸案は小学校の建設場所についてでございますが、皆様の御検討、また今後よろしく願いいたします。

3 教育長挨拶

どうも、こんばんは。お集まりいただきありがとうございます。また、専門部会の方々、何度も集まり協議していただいていると思います。ありがとうございます。特に通学支援部会、校歌・校章部会、PTA部会、そういったところはいくつかの提案があつて会議も多くなっているかと思います。御礼申し上げます。今日の席が変わっております。6月議会で、嶺南中学校に関わる条例改正が議決され、来年の4月1日から、新しく嶺南中学校で開校するということが法的にも決まりました。中学校の生徒の方も嶺南中学校ということで、丸山地区、和田地区を越えて新しく嶺南地区を創り上げていく、第1回の卒業生とか、あるいは第1期の入学生も来年4月から入るわけですけど、そういった生徒の方も新しい地区創りをスタートさせている中で、この検討委員会が丸山地区、和田地区に別れて座っているのもどうかないということで、それぞれの行政連絡員は行政連絡員で別れて座っていただきましたので、どうか意図といいますか、その意味するところを御理解いただければと思います。

前回の会議で、「15mの高さで誰が責任を取るんだ」というようなお話もありました。これについては、もう、言わずもがなのところがありますので、申し上げませんでした。議会に提案するのは市長であり、学校の設置者は市長ですので、誰が責任を取るんだということになれば、当然市長しかないということなんですが、市長が提案して、それを良しとして議会に認めていただきますので、議会にもやはり責任は同じにあるのかなと思っております。教育委員会は、じゃあ、責任は無いのかというと、法的には無いわけですけど、いろいろこういった会議を進めたり、この内容でよろしいだろうかと、市長に提

案していますので、道義的責任というか、もっときつい責任はあると思っております。いずれにしましても、御審議していただいている内容は、この中で了解するだけではなくて、この後、提案者である市長が納得しなければいけないということですね。もう一つは、その市長が提案したものを、23人の議員の皆さんの中で、賛成多数でよろしいわけですけど、学校をどうするかという問題、どこにどんな学校を置くかということですので、これはやはり全会一致が望ましいと思っております。ですから、提案する市長の理解が得られる必要があるということ、それから、それを受けて、これなら納得できるものだというので、議会でも納得いただけるような内容に是非やっていたいただければと思っております。私どもとしましては、南三原小学校区で建設するというのではなくて、検討するというので提案しております。これは、学校建設の条件とか要件といいますが、これはたくさんあるわけですし、いろいろ各地区で再編検討委員会を進めてきましたけど、私の記憶ですと、29ページにわたる会議録というのは、初めてではなかったのかなと思っております。それだけいろんな意見を皆さんから出していただいたということで大変ありがたく思っております。その中で、学校建設の要件としましては、私どもが提案した一番根拠になりました「地域の思い」ですね。和田と丸山に小学校、中学校を分けたらどうかということで提案したわけですけど、皆さん方から出たもので、海拔、高圧線、安全安心の観点、あるいは一貫教育とかそういった教育内容に関わる御意見、あるいは20年後、30年後、40年後を見通して考えていくべきだという御意見もいただいております。あるいは、これからのいろんな状況を考えると、無駄なものは造らないで施設は共有できるようなことも考えていかなければならないだろうという御意見もあったかと思えます。あるいは、もっと本質的なもので、誰のための学校建設なのか、大人の感情なのか、あるいは子供たちのメリットなのか、そういったような御意見もいただいております。この学校建設に関わるものについては、この丸山、和田地区の理解だけではなくて、他の地区の皆さん方の御理解もいただかなければいけない。もうひとつは、20年後、30年後、40年後に問われた時に、納得できるものでなくてはならない。非常に難しい問題ですけど、今日もこの事が中心になるとは思います。皆さん方の思いのところを出していただいて、検討を進められたらと思っております。

4 報告等

第9回の学校再編検討委員会合同会議を平成25年6月4日に行い、この時の出席委員は、丸山地区22名と和田地区22名となっております。議題に入る前に、それぞれの専門部会から検討状況を報告していただきました。次に、議事に入り議題の第1号「各専門部会部会員の選任について」協議をしていただきました。各専門部会の人数につきましては、第7回検討委員会にて承認をいただいております。通学支援部会が20名、校歌・校章部会が16名、PTA部会が18名となっております。なお、専門部会の部会員については、検討委員会の承認を得たうえで、交代や増員ができることとなっております。

その他に、学校行事やカリキュラム等のすり合わせも必要になってくるかと思えます。それらにつきましては、関係する学校間で連携し、特に専門部会は設けず、適宜検討を進めていただくということで承認をいただいております。続いて議題の第2号として「専門部会協議事項について」検討をしていただきました。まず、校歌・校章部会からは、校歌の作成者について協議があり、作詞を諫川正臣先生、作曲を笹崎清先生に依頼するというので承認をいただいております。次に議題の第3号として「統合小学校の建設候補地について」前回に引き続き検討をしていただきました。前々回の会議で電磁波の問題が話題となりましたので、平成25年5月9日の午後に、東京電力の調査に同行しまして、その結果を報告させていただきました。調査の結果、国際的なガイドラインを大きく下回る電磁波のレベルであることから、教育委員会としては、建設候補地として提案したE地点については、特に電磁波に係る問題はないと考えております。この調査結果を踏まえた上で、和田小PTAからは、30年後、40年後を考えると、電磁波の影響が心配でもあるが、15mという高さについて、それ以上の想定外の津波は来ないという断言をしてくれるのなら、納得しなければいけないのかなという御意見でした。南三原幼小PTAからは、前は和田幼小PTAの中学校の隣という案に賛成するとのことでしたが、PTA総会の後の説明会で、皆さんの御理解をいただき、大前提である『中学校は丸山』、『小学校は南三原学区』ということは変えずにE地点で、かつ、高圧線からある程度距離を置いたところで建設をしていただきたいとの御意見をいただいております。丸山中学校PTAからは、小学校と中学校がそばにあった方が親としては安心であるという御意見をいただきました。和田中学校PTAからは、E地点であるならば、そこは和田地区ではないので、中学校併設のメリットを取った方がいいとの御意見でした。また、C地点でもいいのではという意見も、和田地区の委員さんから挙がっておりました。その他の意見として、幼保、そして小中一貫にすれば、いろいろな年代の子供たちで活動することが増え、豊かな教育活動ができ、優しい心が育まれる可能性がある。そうした子供たちにとってメリットが見えていながら大人の感情で分けるのはもったいないのではとの御意見がございました。また、E地点について、前回会議で、次回までに委員の皆様にご時間を作っていただきまして、実際にE地点に立ち、ロケーションがどんなか、風景がどんなふうに見えるか等を含め実際に感じていただきたいをお願いしていたかと思えます。以上のことから、建設候補地については、いろいろな御意見等があるため、更に意見集約をする必要があるということで、引き続き検討することとなっております。

報告は以上となりますが、委員の皆様には前回の会議録を事前に送付させていただきましたので、本日の会議にて御承認をいただき、市のホームページに会議録を掲載したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(配布資料の確認)

事前に配付させていただいた資料は、1枚目が本日の会議次第で、2枚目がカレンダー、その他に、前回の第9回合同会議の会議録、また本日配付させていただいた資料は、各専門部会からの検討状況報告となります。前回の会議録につきましては、検討委員会で承認された後、市のホームページに公表されることになっております。ただ今の会議録に対する御質問等があれば御発言等お願いいたします。

(質疑等なし)

次に専門部会の検討状況報告についてでございます。始めに通学支援部会からお願いいたします。

通学支援部会ですが、第6回を6月26日、第7回を7月25日に開催いたしました。第6回については、バス停をある程度絞って検討をしてみました。第7回につきましては、教育委員会に要望を出してあったものについての回答を一部いただいたので、報告をしていただきました。スクールバスを学校の活動に合わせて、2台購入して運行していただくということで、お話をいただいております。その内の1台は上三原を通るので、最初はマイクロバスでと考えていたんですが、人数を確認したところ、30名を超えてしまう年度がありましたので、中型バスに変えた方がいいのではないかとのことでした。その次に、外灯が要望を出来るんですが、通学支援部会長の名前で、その地区の方が区長にお願いに行ったらいいのではないかとのことでした。スクールバスについては、「課業日の運行です」とのお話をいただきました。引き続き要望していく内容としては、部活動のバスについて要望を出していきたいと思っております。特に上三原の方なんですが、遠いので、できれば土曜日だけでいいから運行のお願いをしていただけないかとのことでしたので、この2点について、引き続き要望を出していきたいと思っております。次回は、8月27日に第8回を行う予定です。

次に校歌・校章部会をお願いします。

校歌・校章部会ですが、会議は開いていません。経過についてですが、校章デザインの応募を、7月20日から9月13日まで、募集中になります。なお、こちらには記載しておりませんが、校歌の方は、諫川先生、笹崎先生に引き受けていただいたので制作中であります。

次にPTA部会をお願いします。

PTA部会では、先日18日に、今までの繰り返しだったんですけども、和田中の教頭先生と委員の方が何名か新しくなったので、皆にここに書いてあることを周知するために会議を開きました。丸山中と和田中と同額で会費を残そうという話だったんですが、不公平のないように生徒一人当たり220円ということで話が進みました。今後は来年度の役員を選出を行っていききたいと思います。

次に行事、カリキュラム及び学用品については、丸山中学校長をお願いします。

まず制服についてですが、7月17日午後7時から4小学校の代表、両中学校の代表、小学校の方は校長、PTAの代表各2名ずつ、中学校の方は校長、教頭、PTA、それから、学用品部会の長であっ

た方を含め19名で会議を行いました。そこで、日本メンモウ、オゴー産業、明石被服興業株式会社、館山の丸村の4社にプレゼンをしてもらいました。その結果、オゴー産業が会社の姿勢、会社が社会に貢献をしている、それから、値段的に他の業者より1000円から2000円安いということで、大体3万2000円から3万3000円でネクタイとブレザーと女子の場合はスカート、それと、当初、学用品部会から男子は詰め襟でいいんじゃないかとのことだったんですが、その後、学生服の値段等を調べた結果、男子は5万円から、中には7万円という人もいまして、今後、嶺南中学校として何十年も続いていく中、詰め襟にしても、首が苦しいとかいろいろあって、男子についてもブレザー、ネクタイ、ズボンと値段的にも女子と大差はなく、3万2000円から3万3000円ということでありました。今後、オゴー産業に嶺南中学校としての、いろいろ地域であるとか含めて見本を作ってきてもらって、再度検討するということになっています。時期については、早くて8月の終わりから9月くらいになるかと思っております。あと、安全性についてオゴー産業の場合は、反射テープを襟と袖口に既に縫いこんであります。今、ほとんどのところは腕章なんですけど、取れてしまったり、中には意識的に取ってしまったとか、それから、写真を撮ると、非常に腕章が光って、記念写真とか余り良くないというようなこともありまして、オゴー産業の場合には、それが既にデザイン的にも考えて縫いこまれていると、安全にも配慮されている点からオゴー産業にお願いするということになりました。それから、カリキュラムと行事については、両中学校の全職員で8月5日に集まりまして会議を行う予定になっております。各部会から報告をいただきました。それに対する御質問等があれば御発言等お願いいたします。

(質問等なし)

5 議事

事務局 設置要綱第7条第1項の定めにより、委員長に議長をお願いいたします。今回、和田地区の委員長に合同会議の議長をお願いしたいと存じます。なお本日、検討委員会に傍聴の申出がございましたので、委員長、傍聴者に入っていただいでよろしいでしょうか。

委員長 傍聴人を許可します。

(傍聴人入場)

本日の出席委員数は、丸山地区21名、和田地区22名です。両地区ともそれぞれ過半数に達しておりますので会議は成立いたします。それでは、「第1号 専門部会協議事項について」を議題といたします。事務局に説明を求めます。

事務局 「第1号 専門部会協議事項について」でございますが、それぞれの専門部会で協議検討を進めている中で、検討委員会の判断が必要とされる案件がありましたら、各専門部会から御発言をいただきたいと存じます。

委員長 「第1号 専門部会協議事項について」ただ今、事務局から報告がありましたが、検討委員会で協議検討事項がありましたら、御発言をお願いいたします。ございませんか。

(協議事項等なし)

次に「第2号 統合小学校建設候補地について」を議題といたします。事務局から報告が何かございますか。

事務局 統合小学校の建設候補地について、前回の会議では、まだ建設場所を決定するに至っておりません。引き続き御検討いただければと存じます。また、前回の会議において、E地点について、この期間中にそれぞれの検討委員が現地の状況などを確認する事としておりましたので、感じたことを御発言いただければと思います。

委員長 前回に引き続きまして統合小学校建設候補地について検討をしたいと存じます。

委員 南三原幼小PTAです。6月の会議が終わりまして、E地点とC地点だとかなかなか決まりませんでしたので、再度、PTAでC地点とE地点について、どちらが第一候補によろしいかということで、アンケートをしましたところ、3分の2がC地点、3分の1がE地点で、南三原幼小としては、C地点を建設候補地としてお願いをしたいと思っております。C地点というのは、13m80から14m80ということで、15mをクリアしていないですが、校舎建設する場所について、1mまでは盛土をしなくても済むという考え方から、盛土という対応をとっていただければC地点が一番いいのではないかということになりましたので、C地点でお願いしたいと思っております。

委員長 今、南三原幼小PTAからC地点を候補地としたいという御意見がございました。何かこれに対する御意見等ございますか。

委員 和田幼小PTAですが、その件について、南三原幼小の委員から、一緒に検討してみてくれないかとお話しがありまして、和田幼小でも全員ではないですが、PTAの役員の方々にある程度諮ったところ、高さ的に南三原幼小の委員がおっしゃられたように13.8mから14.8mであるならば、盛土するとしてもそれほど多くの量ではないだろうということで、同じ15m程度の高さのE地点とC地点で大差がないのであれば、できれば、はっきりと和田といえるC地点に建てていただいた方がいいのではないかという意見が出されました。

委員 意見というより、ちょっと聞いていただきたい気持ちで、今の中学2年生が、当時5年生で、3月11日に日産自動車の工場見学に行っていて、そこで地震が起きて帰ってこれなかった子供たちです。自分の子供の様子をちょっとお知らせしたいんですけども、蒲田高校に夜中1時に着き、教育委員会の方に手配していただいて、子供たちはそこに泊まることのできた

と聞いています。毛布だとか食料をいただいて、その晩は午前3時くらいから寝れたと言っていました。次の日は朝8時にそこを出発して帰ってきたのは夜の7時半です。その間にご飯は買っていただいたものを半分に分けて、飲物もひとり1本はもらえていないようでした。その後、子供がどうなったかという、高速道路を走っていると、「いつ着くの？いつ着くの？」と下りるまで言っているんです。それを言わなくなったのが、やっと卒業してからです。次に1年後に国会議事堂に6年生で行っているんですけども、その時に担任の先生に、「お金たくさん持ってきた？」って、だからその時の印象がかなり子供たちの中に残っているんです。卒業文集で、うちの息子ともう一人女の子がその時の様子を書いています。それだけ、子供たちにもすごい影響を与える出来事であったことは間違いないと思います。

委員長　　今、南三原幼小PTAと和田幼小PTAからC地点に建設した方がいいんじゃないかという御意見が出ておりますが、事務局としては何か御意見ございますか。

教育長　　C地点については、内部で検討したということだけでありまして提案はしなかったわけです。といいますのは、前回の会議で「15mを超えたくらいの高さで何かあった時には誰が責任を取るんだ」ということまで言われているわけです。これはですね、4小学校の説明会の折にも、「15mの高さでも不十分だろう」ということが、今、お話しのあった南三原小学校でも、和田小学校でも何度も私ども言われているわけです。そういうものを踏まえて、15m以下の所には学校は建てないということで、E地点を提案しているわけです。ですから、あえて15mにならない所に盛土をしてやることの意味ですか、それはちょっと現状では理解できません。それともうひとつは、御存知のように、C地点というのは、三原川と温石川に挟まれた地点であるわけです。かつて、南三原小では、丸山中学校の所に建てると丸山川を遡上していくので、その案は駄目だということも話されている。そういう中で、あえてそれよりももっと低い所に建てることの意味というんですか、私ども、もうちょっと伺わないといけないなと思っております。今の時点では、どういう意図があるのか分かりませんので、感想めいたものしか言えませんが、お話を伺っている限り、あるいは今までの説明会等で私どもが重ねてきた結果を考えると、教育委員会としては、13mあるいは14mの所に盛土をして建てるということは考えにくい案です。

委員長　　それに対して御意見いかがでしょうか。

委員　　前回の議事録の中で国が示しているのが9m、その中で安全を取って教育委員会ですか市ですか、15mとしたということなんですけど、何を基準に15mにしたか分かりませんが、安全を取ったという言い方をしています。私どもが今提案したのは、その現地が13.

8 mから14.8 mあります。ですから、校舎を建設するために15 mが必要であれば、15 mに盛土をして、そこに建ててもらえばいいのではないかと提案でした。15 m以下の所に建てると言ったわけではありません。それと、どの地点にしても、運動場を造るということになれば、どこも田園地帯です。ですから、そのまま運動場として利用するわけには多分いかないと思います。そうすると、当然その中には盛土ということも含まれてくると思いますので、どの地点でも盛土をするということが考えられると思います。ですから私どもとしては、そういう中で父兄の皆さんに問いかけをいたしまして、その中で一番いい場所はC地点だという意見でありましたので、C地点を提案したわけです。

教育長 言葉尻を捉えるわけではないですけど、市で設けた15 m以下の所には公共物を建てないということですね。委員は去年の3月まで市の職員をされていたわけですから、市の方針、考え方として15 m以上の所に公共物を建てるということは、当然了解していたことだと思いますので、これについては、あえて申し上げさせていただきます。もうひとつは、15 mの高さがあって、校庭をとということで、更に盛土をするのと、元々15 mない所に、15 mの高さを確保するために盛土するのでは全く意味が違うと思うんです。私が今、納得できないというのは、今までの各小学校のPTA総会で15 mの高さでもまだ不十分だと随分言われてきたわけです。ですから、そういう経緯を踏まえると、15 m以下の所にあえて土を盛って校舎の敷地にするのは、私としては現時点では良しとはできないということです。

委員 教育長の言うとおりに、私は市の職員でしたので、まあそうですけど。ただ、今、私が申し上げているのは、私個人の意見ではありません。私は南三原幼小PTA会長として、皆さんにアンケートを採った結果を申し上げているので、私個人の意見ではありませんから、そのへんは間違えないでいただきたいと思います。

委員 3分の2っていうのは、何人中の何人なんですか。

委員 92名中59名です。

委員 具体的な理由は何なんですか。そこにしたいという理由は。

委員 C地点とかE地点とかいろいろ決まりませんでしたので、そういう中で、じゃあ何が一番条件的にクリアしやすいのかということですよ。要するにE地点については、においだとか電磁波だとかそういう問題がありました。C地点については高さだけです。そうすると、どれが一番クリアしやすいかなと考えた場合、高さです。単純に盛土をすればいいので。その中にいろいろ書かれていますけど、C地点がいいということで59名の方が書いていて、E地点がいいということで33名の方が書いていますので3分2ということです。

委員長 今のお話しで御理解できましたでしょうか。

委員 A、B、C、D、Eまで教育委員会の方で案を出された時に、多分資料お持ちだと思うんですけども、いろいろなジャンルについての数字が入っていたかと思うんですね。一番環境にいい、子供が学ぶのにいい条件がE地点だったと思うんです。いろんなデータが出たんですよね。それを越えてC地点というのは、どうなのかなと思ったんです。

委員 何ですか。私が申し上げているのは、アンケートを採らせていただいて、その結果を申し上げているんです。ですから、私の意見ではないです。皆さんの意見です。

委員長 これについて、何か御意見ございますか。

委員 多分、前に丸山地区の委員が言われたように、「二度逃げ」を考えた時に、この辺の地理だと、二度逃げでもう一度高い所に逃げるには相当の距離があると思うんですよ。去年も言ったと思うんですが、もう一回逃げる高台が5分以内の所ないと非常に危険だよと、盛土でそこから5分以内に高い所に逃げるというのは非常に地理的になかなかないんじゃないかと。津波が川を遡るといふ話を言われて、丸山川でさえも危ないよと言うのであれば、温石川や三原川の方が、ここの方がさっき教育長が言ったように、非常に危険だなと。いくらアンケートの結果と言っても、地理的に地形的にやっぱり無理があるんじゃないのかなと思います。

委員長 他に御意見いかがでしょうか。

委員 南幼小PTAです。アンケートの結果は、たくさんの人たちの意見なので確かにすごく大事な意見ではあるんですけど、私たちはここで、いろんな資料を基に話し合いを重ねてきたので、多面的に考える必要があるかなという部分で話をさせていただくと、川って怖いなって、今、ニュースでやっている川の氾濫とか、地震もそうだけど、日々の生活の中で、雨とか土砂災害のことを考えたり、あと、私的な用事で東北に行くことが年に何回かあるんですが、その時にどうしてこんな田んぼの真ん中に船があるんだろうって思ったことがあります。海はずっと遠くに松林が見えるだけなんですけど、実は小さな小川を遡上してきていて、平地であれば、それだけ川を遡上してくるのかなと思っています。ですから、皆さんの意見も大事にした上でいろんな事を総合的に考えながら、もう一回考え直すのであれば、だけれども、これやってると3年間ずっと続いているような気がして、そんな意見を持ちました。

委員長 他に何かございますか。

委員 今まで会議をしてきた中で、A、B、C、D、Eという地点で一番いい場所はE地点というところで話し合ってきたわけですよね。それをまた、そのC地点に戻すということは、条件が悪くなるということなんじゃないのかなと思うんですよ。ですから、E地点が駄目ならば、

もっと違う場所で検討すべきではないのかなと思いましたがどうもいかがでしょうか。

委員長 他の地点で検討したらとの御意見が出ております。他に御意見ございますか。

委員 私もずっと最初から出ているので十分理解はしているつもりですが、今回、南三原幼小と和田幼小で意見を出したことの意味として、やっぱり和田地区に欲しいんだと、自分たちが逃げる時にはやっぱり近くに欲しいっていうのが根底にあるんです。E地点でって言われたのも頭では分かってはいるんだけど、何とか理解していただけないかなという藁にも縋る思いで提案をしまして、駄目なのは重々承知しています。ただ、拠点がどうしても欲しい、安全に避難するには近くにあった方がいいと切実に思っているということで、アンケートに反映されているんじゃないかなと思いますんで、ただ願いが強いついていう部分で提案があったと理解していただけたらと思います。

委員 この場合、何が一番大事かと考えた時に、まず子供の命ですよ。そこを守れるかっていう会議ですよ。そこを考えた場合に、少し納得できるんじゃないのかなと思うんですけど。

委員 これは完全に大人のエゴだと思うんです。そうであれば、前に丸山地区の委員が言いましたよね。一度御破算にして、丸山は南小、和田は南三原でも和田でもどっちでもいいです。それで機が熟すのを待った方がいいんじゃないでしょうか。これは、本当に平行線です。地震があつて津波があるまでに2分や3分じゃないですよ。20分、30分あると思います。その間に、避難をする訓練っていうのは、校長先生を始め、先生が一生懸命やっていると思います。今、本当にもっと子供の人数が減った時にどこに建っていたら良かったのかと考えるのであれば、私は待った方がいいと思います。私は正直、丸山の人間だからと言われるかもしれませんが。だけど純粹に子供のことを考えているつもりです。絶対に中学校の隣に建て、もちろん体育館まで含めて施設は全部別に建ててもらいます。個人的には、それで教育した方が子供は優秀になると思います。ただそれは、和田の町民の方にはまだ納得できるはずがないのかもしれませんが。ここは、そんなに慌てなくてもいいんじゃないかという事を提案したいと思います。もう、すっかり教育委員会もお金がなくなってきたことでしょうし。

委員長 今、委員から、こういう意見が出ましたけども。

委員 賛成です。予算を考えていくと、ものすごい予算が必要になってきてしまう。

委員 僕は実はよそ者なんで、和田地区と丸山地区の関係性っていうのを詳しく知らないんですが、南房総市のこのエリアを考える時に今、合併しなければいけなくなっている原因というのは、子供が減っているからです。例えば、僕みたいな移住者を増やしていこうとした時に、丸山中学校の隣に同じように小学校があるとすると、和田町のエリアとしては非常に遠くな

り過ぎてしまって、和田町にしてみますと、移住者を増やそうと色々な活動をしているわけですが、小学校が隣の丸山町まで行かないとないっていうのは、非常にアピールをし難く、人口を増やす努力をしようとする時に、和田町という中に小学校がない、義務教育のインフラがない、だけど隣の丸山町には両方のインフラがあるとなってくると、この先、人口を増やしていこうと努力した時に非常にやり難くなるというのが、実感としてはあるんですよ。それと、先ほどのC地点の「高さが足りない所に建てられない。その根拠が分からない」とありましたが、一番の理由としましては、E地点は和田町からしてみると、和田町内に見えないということにあります。和田町内に、はっきりと和田町の住所が付く所に学校を建てていただきたいというのが和田幼小としての希望としてはあるわけです。ですから、高さ的に満たないということに関して、今まで聞いてきましたが、15mあれば大丈夫というような、御判断をいただいた上に立って、じゃあ、その15mという数字を受け入れながら、どういう方法が取れるかということで、今回の結論にいたっていると思います。

副委員長 話を前の話に戻しますが、今日、和田小の校長先生もいらっしゃっていますけど、学区でもうちょっと頑張るには、和田小は校舎自体がかなりひどい状態にあり、かなり手直しを入れないと非常に厳しいんじゃないかなと思います。

委員 言葉が足りませんでした。例えば丸山の場合は、丸小は元々合併して南小に行くんだと、丸小の父兄はほとんど思っていたと思います。だから、和田の場合は和田で話し合っていたいて、南三原小学校、海拔は低いです。ただ、裏に登って行けば、それこそ10分、20分で建てたいというC地点に行けるわけですよ。だから、和田小の生徒は一回、南三原小に合併して、このご時世ですから、この人数で新しく建物を建てるというのは市も許してくれないと思うので、私は和田小の生徒は南三原小に行くという前提でお話をしていました。

副委員長 そうすると、4校統合ではなくてって話ですよ。

委員 そうですね。この話でまたC地点に戻る、それこそ検討なので、判決ではないので、一時不採用とかの言葉は違うかもしれませんが、委員が変わる度に意見が変わったのでは、これは全く何のための会議か、私たちが昨年1年間過ごしてきた会議は何だったのって話ですよ。昨年から出ている方は、多分、うんって言うてくれると思いますけど。会議っていうのは、前に進まなくてはいけないと思うんです。私は少なくとも意見は聞きますが、一応検討委員の代表として来ていますので、いちいちアンケートを発表する場ではないと思っているんですよ。本当に子供のことを考えて、将来、子供たちが一番、教育環境的に良く過ごせるかということを大人は考えてあげるべきじゃないかなと思うんです。もちろん、大人の避

難場所も絶対必要だとは思いますが、これは、30年、40年、50年、この南房総市を背負って立ってもらう人たちを、私たちはつくっていかないといけないんですよ。自分のエゴでそういうことをしていつてはいけないんじゃないのかなという話です。

委員長 今の委員の意見に対して事務局の方は何か御意見ございますか。

教育長 繰り返しになりますけど、基本的には今、お話しされた委員と同じなんですけどね。この会議だけを重ねてきただけではなく、それぞれの学校、PTAにお邪魔していろいろ説明をし、御意見をいただき、それを踏まえてE地点ということで提案しています。ですから、今、唐突にC地点と言われて、アンケートの結果ということなんですけど、南三原小に行っても、和田小に行っても、高さに対する懸念が非常に強かった。そういう中であえてC地点を出してきたことの唐突さというんですか、それについてはちょっと理解し難いところがあります。私どもとしましては、皆様方からいただいた意見を踏まえてやっていきたいと思ひますし、ここに参加していない保護者の方、地域の方の思ひも踏まえて更に進めて参りたいと思ひます。今、私が個人的に反省していますのは、やはり「南三原小学校区で」というふうな提案が、地区への思ひを強くしてしまったのかなと。ですから、最初から地区を抜きにした提案をした方が、より学校の在り方とか本質的な議論になったのかなと、反省しております。いずれにしても、皆様方から意見をいただいて、再度、私どもの考えを改めて練り直して提案しなければいけないのかなという思ひは、今、会議の途中ですからこの会議がこの後、どうなるかは分かりませんが、今の段階としてはそんな思ひを持っています。

委員 仮にE地点に、子供たちと先生方がいらっしやったとして、日中、先生方が子供たちという時間が一番長いと思うんですけども、今、においのことを懸念しておりますが、もし、先生方で気がかけていらっしやる方がいれば御意見をお伺いしたいです。

委員長 いかがでしょうか。

委員 南幼小PTAです。実は私も、元々この人間ではなくて、正直、個人的な見解を言わせていただければ、先ほどの委員のお話のとおり、そこまで話が元に戻るようであれば、元に戻した方がいいのかなという意見もあります。ただ、せつかく、これまでの1年間、教育委員会の方でもE地点でということで、前回の会議で提示していただいて、多分、この委員の中でそういったかたちで話を進めていただいていたと思うんです。前回のこの会議の宿題というか、E地点の中でにおいの問題が出ましたけども、今日参加していただいている委員の方々に、E地点のにおいのことで、実際にその現場に行かれて、一日じゃなくて、何日か見てこられたのかなというのがまずひとつ。自分は、今、岩糸に住んでいるので、比較的E地

点というのは近い所ですから車でも行けますし、散歩がてらでも行けない距離ではないのですが、仕事柄忙しくて時間も不規則なので、朝とか夜とか、6月の会議の後で、10回以上はE地点に行かせていただきました。他の委員がどう思われているかは分かりませんが、特においについては個人的には気になる点ではなかったと思います。事務局の方でも、今日の会議の最初の時点で、E地点のにおいの問題もあるということで意見が出ています。南三原幼小ですかね、アンケートを採られて、C地点ということで3分の2がアンケートで出たとのことですけど、実際にE地点のにおいとか、高圧電線のことは前回の会議で問題ないということを出ていると思いますので、このにおいについて、南三原幼小、和田幼小、丸幼小もそうですけども、そういったことも意見で出されたのか、それを前提に話を前回の会議でしてるのに、唐突にC地点となると、個人的には今の段階では納得できないかなと。E地点が、どうしてもにおいが気になるというのがあって、その上でC地点と言うんだったら分かるんですけど、それもない上にC地点と、アンケートの結果だけを持ち出されても、自分としては納得がいかないというか、それだったら今の丸山中学校に隣接した方がよっぽどましだと。子供の安全面を考えると、やっぱりそこが一番自分の中であった所なんですけど、教育長の方から話が出た、地域云々ということで考えればE地点でも、建設候補地とすればいいかなと思うんですよ。E地点の前回の会議で出たにおいの問題について一向に今の段階では話が出ていないので、そこを皆さんの中で解決してくれて、じゃあ、E地点は駄目だとなれば納得するんですけど、においのことも全く話にならないでC地点という話になってしまうと、話が全く戻ってしまうと思うので、その事についてまず協議していただければと思います。

委員 何でC地点でって、前回集まった時に話をしたかということ、牛糞のにおいの問題だとか、杭が18mだとかいうから、あと丸山地区になるというから、C地点であれば道は広いし、通学路にもいいんじゃないかと、先ほど、委員がおっしゃったように、盛土すればいいんじゃないかという話に達したわけですよ。PTAがアンケートを採ったと思うんですけどね。確か牛糞ね、しょっちゅう通るけどね風向きにもよるけど、におわないはね。それと、教育長、E地点は踏切のすぐ脇になるんですか。和田の住所になるんですか。円だと範囲が広いんですよ。その辺の要するに、踏切のすぐ隣くらいになるのか。

教育長 この前お話ししたとおりですね、土地の買収とかありますので、厳密にこの場所ってというのは想定できないんです。ですから、この範囲の中で土地を譲ってもいいというお話しをいただけた所を買っていくことになると思いますので、それによって若干位置が変わってくる

かなということは、この前お話ししたとおりなんで御理解いただきたいと思います。

委員　でも決めないことには何回会議やっても一緒ですよ。本当、丸山中学校PTAの委員が言うようにね。でなければ、2校ずつで造るか、平行線だしまとまらないし、しょうがない。

委員長　いかがでしょうか、他に御意見ございますか。

委員　先ほどのアンケートの結果については、あくまでも参考資料としてはいいと思いますけど、それで全て決めてしまうということではないですね。そういう意見もあるのかということですね。ただ、会議の流れっていうのは、何回もいろいろな方から出ているので、それはやっぱりきちんとしていかないといけないので、その上で参考にするということですね。ただ、なぜそのアンケートの結果がE地点からC地点になったのかということ、そのところの理由が今いち、今、言ってたんですけど、結局E地点といっても、具体的にここがこういうふうになっていて、どういう条件だとはっきり分かっていないんですよ。我々は、現時点では、それは分かるわけじゃないですよ。ここを調べたわけではないんですから、大体この付近ということで。そうすると、あそこら辺に牛舎があって云々というのであれば、漠然としたことだけで、物事を決めてしまうというのはいかがなものかと思うんですよ。大体E地点ということが出たならば、ある程度、そこら辺の条件はどうなっているのかももう少し詳しく調べてみなければいけないですよ。場合によってはいろいろ調べてみたら地権者の問題とか、いろんな方からのいろんな条件が出てきて、どうもこれはまずいんじゃないかということも出てくるかもしれませんね。また、懸念されたにたいの問題だとかが意外と解決するかもしれませんね。だから、そういう時にまた検討すればいいと思うんですよ。ここで何もかも全て決めてしまわなければいけないというのは、今、我々に示されているデータでは結論を出せないんじゃないかと思うんです。そういう時は、今までのE地点というひとつの提案がいいだろうということできているんだから、もう少し、どんな条件になっていてと調べてみて、データなりを示していただければ検討しやすいんじゃないかと思います。

委員　おっしゃられるようにね、例えばE地点で決まったというより、候補になった場合に地権者がね、買収するのにね、「いや、売らない」と言ったらどうするの。A、B、C、D、Eの全部、そういう条件はどうされるんですか、そうなったら。

委員長　それはまた、違う時に考えるしかない。

委員　そうでしょ。

委員長　今、そういう段階にあるんですよ。

委員　だから候補地でこうなったら。

委員長 そこで決まりってわけではないと思うんですよ。

委員 いやいや、さっき決まりとか言うからね。

委員長 いや、会議の流れとしてはその方向でいきましょうということできているんだから。

委員 私がC地点と唐突に言われたというお話しが出ておりますけども、会議でE地点であるとか、C地点であるとか、決まらなかったというふうに私は認識しています。ですから、私は学校に帰ってというか、地元に戻りまして再度検討する必要があるんじゃないかということで、E地点とC地点について、どういう問題がありますよということで父兄の皆さんに投げかけて、その結果C地点が多かったということでC地点を検討していただきたいと御報告を申しあげています。私個人の意見では、小学校というのは近いにこしたことはありませんから、市の方には逆行しますが、私は2校でもいいと思っています。小学生というのはなるべく近い所で学ばせた方が私はいいと思います。中学生というのは体力も付いていますので、多少の遠距離でもいろいろな通学方法があります。でも、小学生というのは1年生から6年生までいますから、6年生になれば13歳近くですから大人の体力に近いですが、小学校に上がったばかりの子はなるべく近くで通学して勉強した方がいいと思います。これは私個人の意見です。さっき、申し上げたことはPTA会長として申し上げました。

委員 参考としてお伺いしたいんですけど、3. 1 1の後に各小学校の耐震の何か検査とか、教育委員会としてしましたかね。

委員 データで出ていますよ。和田小学校は足りてないじゃないですか耐震が。

委員 すいません。私もよそ者なのでちょっと昔のデータとか知らないんですけど。

委員 今までの会議の中で出ていますよ。ホームページにも。

教育長 申し上げれば市内小中学校たくさんありますけど、耐震基準を超えてないのは和田小学校の校舎のみです。その他は3. 1 1以前から耐震基準は満たしています。

委員長 いろんな意見が出ていますけども、建設候補地についてはもう少し意見統一を図ることが必要だと考えます。引き続きこの件について検討していきたいと思います。

教育長 先ほどの「小学校は歩いて行ける所の距離がいい」とか、そういった問題については、この再編検討委員会の最初のところで話し合われてきたんじゃないのかなと理解しています。そのあたりが、丸山中学校PTAの委員がさっきおっしゃる、会議を元に戻さないという、ですから小学校の在り方云々については、昭和30年頃は半径何キロ以内とかいわれたんですけど、現在はそういう状況じゃないというお話しもしてきていると思います。もう一点ですけど、次回に私ども提案しなければいけない状況になっているかなと思っていますけど、皆

さん方に帰ってから考えていただきたいのは、いろんな地区でも再編の会議で申し上げていきますけど、冬支度というお話をしています。この会議でも申し上げたかと思います。先ほど和田幼小の委員からは「子供たちを増やすような」とお話があったんですけど、日本全体が今、1億2千万くらいですか、それが8千万程度に落ち込んでいくという推計も出ている中で、人口減、あるいは子供の減少はいろんな手を打ってもなかなか難しいものがある、そういう現実がある中で、いかにそういうものに備えていくかということで、このまま和田地区1校、丸山地区1校で当面はある程度規模が保てるかだと思います。しかし、今は1学年60人、70人、80人という学年がありますけど、0歳児、1歳児になってきますと、4校合わせて40人代の学年になってきます。ですから、その先というより更に少なくなっていくだろうと、そういう状況になった時に果たして人数が少ない学校だから2校に別れてスタートしたけど、それを更に1校にとった時には、恐らく財政的な面でもそういう思いは実現できないような状況になっているんじゃないのかなど。しかし幸いなことになり財政的に厳しくなっていますけど、今の時点なら、先ほど申し上げました冬支度ということで、20年先、30年先、子供がぐっと減っていく時のことを考えて、施設等を整備することは可能かなというような判断も持っております。お話を伺いますと、においとか、あるいは旧地区にひとつ欲しいとか、そういった話があるわけで、私も丸山地区ですけど、丸山中の所よりも私はC地点の方が近いです。ですから、決して丸山地区に学校を建てたから丸山地区の人全部が近くなるという問題ではないと思いますので、いろんな側面からもう一回持ち帰っていただいて、これからの小学校の在り方をお考えいただければありがたいと思っております。

委員 メンバーが変わる度に元に返っていたんでは、最初の人たちって、とっても貴重な時間を割いてこういうふうに参加をしている中で、無駄な時間だなと思うんですけど。先ほど発言された委員だって最初から出ているわけですから、そういうお預けはどうなのかなと思うんですけども。4校を1校にするということは、検討委員会の中では決定しているんです。共有していますよね。ですから、それを持ち帰って云々は必要ないんじゃないですか。

委員 会議を何回やってもね、先ほども委員がおっしゃったように一緒ですよ。

委員 おかしいですよ。もう少し進行をしっかりといただかないと。

委員 どっかに妥協持っていないと一緒ですよ、平行線ですよ。だから、やけくそにバラバラになっちゃうんですよ。

委員 それもおかしいですよ。

委員 だって平行線で結論が出ないじゃないですか。また次回、また次回で一緒ですよ。どうですか皆さん。もっとその進歩的な意見を出して、主は我々でしょうけど、ある程度、教育委員会の方でも出しても構わないんじゃないかなあ。じゃなければまとまらないですよ本当に。強制的に決めるんじゃないくてね、ある程度意見出尽くしてね、これやっても一緒。

教育長 今、委員のおっしゃったとおりで、決められる時に決めなくてはいけません。議論し尽くしてやっていただかないと、この後の私どもの段取りとしましては、こういうかたちで、こういう話合いの下で、こういう方向に決まりましたと市長に報告して、市長が議会に提案するわけです。議会の方で私どもにいろんな質問がきますけど、それに対して皆さん方が議論し尽くして、意見がまとまっていればその方向で私どもお答えできます。ですので、大変申し訳ありませんが、議論はし尽くしていただきたいというのが私どものお願いです。

委員 私は新参者ですけど、私は何回やってもこの話は平行線だと思っています。私の言うことは何回やっても同じです。

委員 私は今年からこの委員になったんですけど、なった理由としては幼稚園側から何名か出てくれないかという話があって、それは5年後、6年後に小学校に入る子たちの親だからという理由でなったんですけど、新しくきたから分からないこともたくさんあるんですけど、こういう理由できている人の意見を余り聴いてくれないのはなぜかなというのがあって。

委員 すいません、そもそも引き継いでください。前任者から、こういうふうな会議が進んでいきますよと引き継ぐのが委員です。

委員 そうなんですけど、じゃあ、新しい意見は出してはいけませんか。今の幼稚園に入る前の親としてはこういう意見がありますっていうのがあって、南三原小学校の方でアンケートを他の委員さんと一緒に採ったんですが、幼稚園の意見とかも出ていると思うんです。それって幼稚園のお母さんたちはこうして欲しいっていうのがあるから、こういう意見が出たんじゃないかなと思うんですけど、それを全く聴かずに今までやってきたというのも分かるんですけど、でも新しい意見も聴いてもらわないと、私たちはきている意味がないんです。

委員 私たちは前から出ているんですけども、やはりくる時にこういった膨大な資料を持ってきているんですよ。申し訳ないですけど、1枚、2枚、今までのこういった資料を前役員から引き継いで内容を把握したうえで自分の考えを言ってくれればいいんですけども、今の耐震性にしても今まで説明があったにも関わらず分かってないですよ。そういうものを引き継いで、いろいろお話をしていただきたいってことなんです。新しい意見を言うのはすごくいいとは思いますが、今までやったこういうデータを一回調べて引き継いで、それを分か

った上で話してくれれば、同じ質問もしなくて済むし、時間も短縮できると思います。

委員 前回の会議でも、話がまとまらなかったわけですね。ですから、そのことについて再度話し合って何が悪いんでしょうか。意見集約ができなかったものに対してこうした方がいいんじゃないかという意見の取りまとめを諮って、この場で検討していただきたいということがいけないんですか。今までの話を聞いていると、全部過去からのことでそれについて話してくださいという意見です。その意見がまとまらないから再度、皆さんに意見を聞いて集約しここで発表したわけです。それがいけないんですか。今の話を聞いているとそう思います。

教育長 いけなくはないと思いますけどね、先ほどの発言は問題だと思います。

委員 教育長は、もうE地点。話を聞いていますとそういう意見ですよ。そう取れました。

教育長 そうじゃないですよ。

委員 E地点はこういうふう、C地点はこういうふうと前回そういう意見が出たんですよ。ですからそれで話がまとまらなかったから、私は持って帰ってやったわけですよ。

教育長 教育委員会は最初に出した案に最後までこだわる考えはありません。千倉地区は来年4月から小学校、幼稚園ともにスタートしますが、私どもが出した案とは違つかたちになっております。ですから私どもは基本的に皆さん方から出てきた意見が、私どもが提案した意見と変わってくるということは十分有り得ることだと思っております。今、私が問題にしたいのは、先ほど、委員の発言で、「私の考えはどんなにやっても変わりません」というのは、話し合っても意味ないぞっていうことを宣言しているようなもので、いろいろ話し合っていく中で、「今までまとまらなかったから再度提案します。それで皆さん方と協議していつて変わることもあります」と、そういうような柔軟性を持っていないと、これは話し合いにならないんじゃないかと。最初から自分の案を変えるつもりはないですと宣言されてしまうと、この学校再編委員会というのは成り立たなくなってしまうと思いますんでね。

委員 それでは、教育長のおっしゃったように、そういうふうに言われたんでは困るということで、話し合いをさせていただきたいと思いますが、ただ、前回の中でE地点であるとか、C地点でいろいろな問題が出てきて、どちらにも決定されなかったわけですね。だったら、これは何回やっても同じかなと考えたものですから、問題点を提起して皆さんに声をかけて、南三原幼小としての意見を取りまとめていきたいと思いますということでやりました。ですからこれが、私どもの意見ですので、それについて検討してくださいということで私は申し上げました。ただ、今までの話を聞いていますとE地点以外の地点は検討されないようなお話でしたので、このままでは私の意見は変わらないので平行線ですよと言いました。

委員 「におい」という面から酪農家としてお話をしますと、現状で単純に置いたとするとせいぜい2・3時間でにおいがしないんです。常にしません。ただ何日か置いてから動かすともものすごいにおいがします。ですから、これは慣れない人には大変だと思います。我々でもとんでもないにおいです。これが冬場の3月までに終わるならいいけども、5月を過ぎると、はえ等が出てきてなかなか大変。産業振興の面からいくと、現状では、あそこら辺は若い酪農家が結構おられます。私も、この間言われたように見に行っ、直に話をしました。「ここに建てる予定がたっているよ」と、それに対して彼らは情報を持っているかという、何も情報を持っていないので、「子供がいて、もっと自覚を持って、PTAとかの会議に出なさいよ。それでもっと情報を持ってきなさいよと。じゃないと、あなた方はこれからここで仕事を、酪農をやっていけなくなっていくよ」と。結局、においについては、ものすごい個人差がありますので、私も堆肥センターの管理のことで裁判までかけられたことがあって、ものすごい大変なことになります。ですから、そこで酪農を続けるとなると酪農家が非常に大変な思いをするんじゃないかと、私は同業者として考えています。

委員 このことについても、以前、資料があったらあれなんです、堆肥というのは一年中積み上げたり、5月に終わればと先ほどお話しがありましたけど、実際どれくらいにおいが発生することが起こりうるのか。1年中ということ間違いはないですか。

委員 職業的に余り言いたくはないんですけどね、実際、処理施設を持ってやっていたらいいんですが、その処理が処理施設で処理しきれない事があります。仮にその処理施設で全部やってもらうと、ものすごい処理費用がかかります。現状の酪農家で、それを全てクリアするのはまず不可能です。ですからその点を見ていくと、教育委員会は産業課と一緒に酪農家に行っ、仮にこの辺にきた場合、土地はいいにしても距離的な面を考、聞いたことがあるのかなと。教育長は、「私どもとしてはE地点が一番いい」と前の時にも述べていますので、その酪農家の皆さんは、そういうふうになった時に、自分たちの生活がどうなるかということに対して意見を確、聞きたいですね。

委員 私も実は何十年前までは、両親が酪農をやっ、そういう思っというのは大変良く分かるんです。あと、E地点という所は酪農家の皆さんが、今、コントラクターという事業で、牛の飼料を梱包したり、そういう作業や、酪農の拠点にしているんだよということをおっしていました。においっというのは、確かに動かす時にすごいにおいがするんですね。ですから、あそこへっ、においをどけるっ、酪農家としては廃業しなければいけないっ、私を感じております。

- 委員 白いラップしてあるの、あれはにおいないからね。あれは、においでませんからね。
- 委員 E地点は和田周辺の酪農家の拠点として作業していると酪農家の方がおしゃっていました。
- 委員 今、話をしなくてはいけない事って何なのかなって、においの話が随分出ているんだけど、今、何のことを話していたんでしたっけ。あっちいたり、こっちいたりで。
- 委員 候補地。
- 委員 確かに「候補地」でそれは筋が通っているんだけど、においもあって、でも丸山中のそばに前、とり小屋があって野球場にいるとすごいにおいがしたんだけど、丸山の子たち皆元気だし、私も牛屋の子だったんですけど元気です。ただ、今、本筋で何を話そうとしているのかをコントロールしてもらえるとありがたいんですけど。
- 副委員長 E地点の問題だと思うんだ。丸山地区の委員が発言したように、前回は、高圧電線がある程度クリアできて、あと最後ににおいの問題だったと思うわけ。皆さんがどのくらいにおいを感じたかと問いかけたと思うんです。そのことに関しての意見があれば。
- 委員 南幼小PTAです。E地点につきましては、前会長から膨大な資料をいろいろいただきまして、何回かアンケートも採りましたが、E地点で南幼小はとりあえずいこうと。やはり想定外を考慮した場合、海拔とか、もし手助けがいたられば中学の隣接地もあるんですけど、どうしても会議でE地点と決まってしまったので、限りなく高圧線から離れた場所で、そういう筋で進んでいくものだと思ってこの会議に出ております。ですので、15m、E地点の円が限りなく岩糸寄りになってしまうかもしれませんが、平地であるとか、牛舎の距離であるとか、私はここへ行った時の感じではにおいは感じません。この平地の建て易い場所っていいですか、高圧線から離れた場所というのがいいと思います。ですので、E地点はE地点で候補地として検討していくべきだと思います。
- 委員長 今、候補地としてE地点、高圧線をクリアして、津波をクリアして、あと、問題になっているのは臭気、環境衛生のことで問題になっているわけですけども。
- 委員 前回も言ったんですけど、私は仕事でし尿とかそういった関係をやっていましたんで、今現在も、小学4年生が社会科の勉強で、ごみとか、そういったもので見学に来ます。そういった中で、やはり生徒によっては「くさい」と言う子と、におわない子と、やっぱりその生徒独自です。におう子は何をしてもにおうんです。全然においがなくてもにおうんです。その子の本質だと思います。それで、前にテレビでやっていたんですが、小学校4年生くらいの女の子のお父さんがバキュームの運転者をしていたんですね。そうしたら、まわりの子供たちが、「お前のお父さん、うんこやだ」、「だから、おまえはくさいくさい」と言ったんです

ね。そうしたら、その女の子は強く「私のお父さんが皆の家のを汲むから皆の家はいんじゃないか」と反対に強く皆に言ったんです。皆が皆におうとは限りません。においっていうのは、その人、個人個人です。実際に、先ほど牛糞の話が出ました。私も家の下の方には田畑があります。そこでは牛屋さんが牛糞を置いています。置いた時はにおいます。でも、何日かするとにおいはなくなります。それがまた何週間かして、3反の大きな田んぼ一面になった時は一斉ににおいが出てきます。その時は洗濯物とかにおいは入ってしまいます。でも、そのにおいというのは、私たちは分からないんです。全然関係ない人たちには「におってたよ」と言われるんですが、私たちはこういう中で生活していますから分からないんです。たまたまそれがにおっても、何日か経てば消えてしまうんです。だから、毎日におっているということは、まず有り得ないです。反対ににおいがどうのこうのって言ったら、みんな職業がなくなってしまうと思います。農家の方はじゃあ、何をすることになってしまいます。それこそ、農家の方が田んぼとかで草を燃やしたりしていると、散歩している人が煙がいけないと通報するそうです。そうしたら、地元にいる人は困るんじゃないかと思うんですけど、それも皆、電話する人は後から引っ越してきた新しくこちらに家を建てた人が散歩しながら電話をするんです。安房支庁とか警察に聞くと、連絡を受ければ出なくてはいけないと言っています。そういう状況なので、においの方の話はまとまらないと思います。あと、小学校を建てるとしたら、空調設備をしっかりとするのかどうか確認したいんですけど。もし、においとかが気になるのであれば、空調をしっかりとすれば、毎日においがあるわけではありませんで、子供たちは大丈夫なんじゃないかなと思います。

教育長 残念ながら空調設備は考えられないと思います。

委員 E地点のね、住所は南三原の所に建てましょうよ。きりがありませんよ。これまた次回やるなんてとんでもない。暇人ならいいけど。

委員 始めから出ていらっしゃる委員が、もう一度2つに戻されてはどうですかという意見を苦しい思いで出していただいたと思います。アンケートを採られた和田の方のC地点、E地点というのは、是非和田に残したいという気持ちの表れだと思います。皆さんが静かになって聞いていたというのは、その意見もありなのかなという意思表示なのかなと思いました。その意見に賛成します。

委員長 結局、近い将来は人数からいっても合併しないと学級が維持していけない状態になるというのは完全に見込まれるわけです。今、E地点に決めたとして、これから用地交渉から始めると、学校が開校できるまで5、6年かかると思うんです。ですから、それぞれの和田と丸

山で小学校をひとつずつ残すと決めてしまって、これが御破算になった場合、これからまた新たな検討委員会を始めたとする、10年位先になってしまうんですね。

委員 南小学校はちょっと前に全部塗り替えをされていますよね。

委員 耐震ね。

委員 そうなると、待っていていいんじゃないでしょうか。どうしても平行線ですよ。1、2年しっかり意見交換をされてきた時間というのはきっちり残っているので、そして改めてここで意見を出してこられたということは、親側の意見を反映させられているということなのではないでしょうか。

委員 校舎に耐震補強がされていて、きれいになっている方々はいいと思います。和田小の校舎は崩れる可能性が十分にあるんですよ。雨が降れば雨漏りはする。階段はひびだらけ、天井の板は抜けているし、あの環境で子供たちが廊下に体操服を干して置いたら、帰ってきたらびしょ濡れなんです。そんな中に、いつまでも子供たちをいさせられないというのが和田幼小のPTAとしては考えているんです。切羽詰まっているんです。ただ、教育委員会からA、B、C、DがあったけれどもE地点でいきたいと意見を出された時に、様々な理由があったと思うんですけど、それ以外にも素人考えではありますが、「どっかの山を削ってそこに建てはくれないのか」、よく出る話で、「小川の方の交通の便が悪いから無理だという話だけでも、何とか道を造るなりして、建ててもらうことはできないのか」そういう希望はあるんです。そこを考えると、その意見を納得させてからでないと、この場で私一人の意見で、「Eでいきましょうよ」とは決めることは私にはできません。ですから、もしもう一回考えてこいと言うのであれば、どうしてもE地点でなければいけない雰囲気になってきているから、「そのことで納得するための皆さんの意見を聞きたいです。」というようなやり方でPTAの意見をまとめてこないことには、この場で「E地点でいいですよ」とは私は言えません。

委員長 今、委員から意見が出ましたけども、ここで早急にE地点、又はE地点ではなく他の地点に決めてしまうのは難しいと思います。何回も申し訳ないと思いますが、次回以降の意見集約ということで、時間も大分経ちましたので閉めたいと思いますがいかがでしょうか。

教育長 私がまた言うと、また議論が始まってしまうかもしれないんですけど、さっき南幼小PTAの委員が話した「何を話し合っているか分からない」というのは、私ども責任を感じておりまして、話し合う観点が全く違うわけですね。一方では『におい』、一方では『和田地区だ』、一方では『幼稚園、小学校、中学校は一か所がいい』、あるいは『海拔の問題』だとか話をしているわけですね。先ほど、丸山中学校PTAの委員が「それぞれ2校でいいだろう」と言

ったのは本意ではないと思います。一番言いたかったことは、『大人の考えで、大人のエゴで決めていいんですか。これから先、子供が使う学校としてどこがいいんですか、その観点で話し合うべきではないんですか』というのが一番言いたかったことではないかなと。『そんなことができないんだったら、もうあえてひとつにしないで、それぞれの地区で小学校を1校ずつ残せばいいんじゃないですか』っていうのが、委員の考えだと思いますので、私とすれば教育委員会の方で提案しておいてっていうことがあるわけですけど、できれば子供たちの今後の小学校としてどういうものがあるのか、地区をこだわる場合もあるでしょうし、地区にこだわらないで考えることもあるでしょうし、そのへんのところ、委員の思うところを踏まえて、もう一回それぞれお考えいただいて次回に臨んでいただければ大変ありがたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

委員 丸山中PTAです。先ほどから意見を聞いていまして、事務局で提示されたA、B、C、D、Eの場所について保護者の皆さんは納得がいかないということですので、事務局の方で改めてA、B、C、D、E以外の場所で候補地を提示というのは検討できないんでしょうか。それについて意見を述べ合うんでしたら前向きになるんですけど、現状のこの候補地では先に進みませんのでいかがでしょうか。

教育長 南三原小学校区で小学校は検討するという提案をしてから、1年半ちょっと経っています。いろんな御意見いただいているのはひとつあります。あと、他にもいろんな状況が変わってきているところがありますので、今、委員からいただいたお話を踏まえて、A、B、C、D、E、そのどれがいいのかを改めて検討することも含めて、また別な所が考えられるとしたらまた別の所ということで、次回までに考えて参りたいと思います。皆さんの御了解がいただければそのようにしたいと思います。

委員 和田中PTAですけど、自分の意見というか、感想というか、前回の会議で、南三原のPTA総会でE地点に賛成すると南三原小を代表して意見を申しましたけど、前回の会議の後にまたPTA本部の方でアンケートを採ってこういう結果になっていますけど、ちょっと自分としては総会があった時に説明会があって、説明が足らなかったのかなと反省をしております。今、候補地を再選定するとのことなんですけども、この会議の前提にある『南三原小学区内に建てる』というのは白紙に戻すんですか。

教育長 いや、まだ考えていません。

委員 ここは、皆さんの意見を聞いておいた方がいいんじゃないでしょうか。

委員長 南三原小学区内に建てるということでずっと進んできていますので、それは変えられない

んじゃないですか。

委員 自分の考えとして、南三原小学区内では無理があると思うんですよ。旧南三原小学区内ですよね。15mという自分の考えですけど、はっきり言って、E地点しかないと思います。盛土が駄目、E地点は丸山だと言っている人もいますけども、そこしかないと思います。

委員 条件がね、通学の人が多い方がいいとか条件があるからややこしくなっちゃうんですよ。なければスクールバスで行けばいいんだから。

委員 自分の考えとしては、やっぱり子供には歩いて通ってもらいたいです。自分には6年生の娘がいますが、スクールバスに乗れるか乗れないかのぎりぎりのラインです。自分としては自転車で通わせたいくらいなんですけども。皆意見がいろいろあると思うんですけども、小学校が今度、どこが候補地になるか分かりませんが、前提条件を白紙に戻していいのかどうか、教育委員会も次回の会議で候補地をまた選び直すのかどうか分かりませんが、もう一度確認しておいた方がいいんじゃないでしょうか。

委員 前回の会議録の中で委員から出ているんですが、文章をそのまま読みますと、「ひとつだけよろしいでしょうか。今、C地点という案が出ましたけど、小向ダムが決壊するんじゃないかという心配が保護者の中であるんですけど、その辺はどなたかお調べになって、情報を持っている方いらっしゃいますか」とのことなんですけど、これって、いますか。

事務局 小向ダムの話についてはC地点の話ですよ。多分、その時の教育長の回答の中には、こちら側としましては、E地点について提案しているので、C地点のその事については考えていないと報告したかと思います。

委員 先ほど、C地点かE地点かと、PTAの方でアンケートを採ったとのことだったので、こういうこともあったのでどうなのかなと思ってお聞きしたかった。

委員 それこそ分かりませんが、今の話も大人のエゴだったと思うんですね。E地点を教育委員会で提示されたということだったんですけど、教育委員会は丸山中学校の隣ということで考えていると思います。というのは、本当にE地点に建てようとしたら、道路の幅から建設、莫大な金額がかかりますよね。どう考えても、金額的に現実的ではないと思うんです。それこそ、どのくらいかかるか、金額の提示をしてくれればおもしろいと思います。それだったら、中学のためにバスを2台購入し、小学生も一緒に乗ればいいですよ。中学校の隣に建てれば通えるんです。少しでも違う所に建ててしまうと、通学時間を考慮して小学生の方が授業の開始時間が遅いのに早く行かなくてはいけないとか、同じ便のバスに乗ろうとすれば、やっぱり無理が出ると思うんですね。同じ所に学校があり、8時までには学校に行くの

であれば、一緒に乗れる。本当に20年後、30年後を考えたら、私はE地点もないと思っています。それでも、本当にどうしても南三原に建てなければいけないのなら、私は1校ずつにすればいいんじゃないかとお話しただけです。

委員 C地点というのは市道が広く、県道も通っています。将来について、国道バイパスの位置も決まっております。要するに高さがなぜいけないのか私には分かりませんが、教育委員会がおっしゃるにはそこは駄目だということですけども、C地点についてはアンケート結果です。ですから、一応検討はしていただきたいなと思います。E地点と私どもが押しているC地点の両方を検討し、比較していただいたらよろしいんじゃないかと思います。

委員長 いろんな意見が出ている中で、今出ている候補地、それと、もう一度検討し直して、候補地を次回に出して検討していくとのことですので、建設候補地の決定については、次回に譲るということでよろしいでしょうか。

委員 さっき私が言った、前提条件の4校統合でいいんですか。皆さん意見同じなんですか。

委員長 そういうあれで検討しているわけでしょ。先ほどの委員の意見もいろいろ入れて、全ての中でもう一度、建設候補地を出していくんですから。

委員 じゃあ、4校統合でいいんですね。変わらないでいいんですね。それを確認したいんです。

委員 4校統合は決まっているんだよ。

副委員長 4校統合は変わらない、前提でしょう。

委員 今日の会議で、いまだに旧町村でいこうというお話も出ていたんで、それを確認したかったんです。あと、統合小学校の建設候補地は一回、これは全部白紙に戻すというか。

今、A、B、C、D、Eまで5つあるんですけど、もう少し絞りませんか。新たに候補地が6か所になるのか、今、E地点かC地点か2つなんですけど、ここにもうひとつ増えるのか、それとも和田小さんから何か意見が出ているDをまた入れるのか。

教育長 A、B、C、D、Eで私どもが5つを提案したわけではないことはお話ししていると思います。内部資料として5つの所を検討して、今までの説明会や皆様の話合いを踏まえて、E地点がよろしいと判断したわけですね。それで、そのE地点では納得できないという御意見、それは出て当然だとは思いますが、アンケートを採ったらC地点だということなんですけど、なぜC地点なのかは今分らないんですけどね。私ども、C地点の良さだとか、マイナス面、そういったものを新たに検討してまた提案しなければいけないかなど、あるいは提案させていただきますということでお話ししています。あくまでも、南三原小学校区で検討するというので考えていますので、ただ提案するということは、今、委員がおっしゃった

ように、「15m以上の所はないだろう」と検討していない場合もあるわけですね。おっしゃるとおりで、厳しい条件の中で、その延長上で検討して再度提案したいと思います。

委員 分かりました。

オブザーバー すいません、ちょっといいですかね。

委員長 はい、どうぞ。

オブザーバー 建設の候補地につきましては、先ほど最終的に議会にも責任があると出ました。でもですね、私が考えるに、市が15m以下の所には公共の建物は建てませんという、きちんとした考えを出している。ですから、15m以下の所に建設するというものが市長から提案された場合、まず通らないんじゃないかと思います。市として公共施設は15m以下の所には造らないとはっきり議会側に示しているわけですので、それを引っ繰り返して、ましてや学校なんて子供たちがいっぱい集まる施設を15m以下の所に建設すると議会に提案が出された場合は、これは私の個人的な考えですけども、よほどの理由がない限りは難しいのかなと思います。その点をよくお考えになった上で進めていただきたいと思います。

オブザーバー 議員はオブザーバーですから、こういう所で述べることはできないと思いますが、以前は15mと言いましたが、現在の市長の考え方は5m地点について、観光施設を建てたり、今までと最近では様相が違ってきて、海拔の低い所でも必要なものは普通に建てていく方針に変わっていると思います。そここのところは間違え、少しそういう方向で検討していらっしゃると思いますので、それで決まっているわけではございません。5mの所で足りないという所にも公共施設も建てておりますので。それと、この検討委員会では、和田町は、中学校は丸山に統合されることに了解しましたが、その理由としては、『小学校を南三原小学区に市としては合併させますので、中学校の合併は丸山でお願いします』というのが市長の考えですのでお間違いなく、要するに市長が和田町に対して、『小学校は和田学校区内に建設しますので、お許しをいただきたい』ということで、中学校を了承したのでお間違いにならないようお願いしたいと思います。

教育長 立場上、お話ししますが、市の公共施設を確かに観光関係とかそういったものについては、避難場所を確保した上で建てる場合もありますけど、少なくとも学校等の建物については、15m以下の所でもオーケーだという市長の指示はありませんので、これは誤解のないよういただきたいと思います。それと、議員にどういう話をしたか分かりませんが、私の方には、南三原小学校区で検討するという以上は市長から指示は何も出ておりませんので、これも誤解のないように御理解いただければと思います。

オブザーバー 私たちはオブザーバーですので、さっきのああいう事を、少しならいいのかもしれませんが、議員は23人います。ですから、ここにいる皆さんの決定で出た時に、23人がどうい判断をするかが、賛成の方もいらっしゃるし、反対の方もいらっしゃるかもしれませんが、参考に聞いてもらえればいいんですけど、それは方向性を示すものではないということ、私はそれだけ言わせてもらいたいと思います。

オブザーバー 冒頭の教育長の今日の発言は非常にいろんな意味で集約されていたと思います。私も常々、教育委員会に対して提言を申し上げていますが、次回、候補地を再度選定する上で、幼保小中連携が時代の流れで、それらを踏まえて候補地をしっかりと選定していただきたいということをお願いします。

委員長 建設候補地については、次回に検討をもう一度するという事によろしいですね。
(異議等なし)

委員長 次に第3号議案 次回の会議日程について、議題となります。事務局からお願いします。

事務局 第3号の次回の合同会議の日程でございますが、9月5日(木)、場所はこの場所でしょうか。

委員長 ただ今、次回の合同会議の日程について、9月5日(木)、この場所であるということで説明がございました。御意見ございますか。
(異議等なし)

それでは、第3号 次回の合同会議の日程については、事務局からの報告のとおり承認されました。

本日の議事が終了しましたので、傍聴人は退席をお願いします。

(傍聴人退席)

委員長 その他についてですが、事務局から何か連絡事項ございますか。

事務局 特にございません。

それでは、検討委員会で様々な案件を協議検討していただいておりますので、各種団体等におかれましても、会議等で報告していただければと思います。よろしくお願いたします。

それでは、以上で、第10回 丸山地区・和田地区学校再編委員会合同会議を閉会いたします。

(閉会)